

【総合的な学習の時間】 第8回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 リサーチクエストについて

2. 本時の概要

本時は、生徒が日々の学びを客観的に捉える「LIFEログ」の活用と、探究活動の質を左右する「リサーチクエスト(RQ)」の設定方法を学ぶ重要な回である。RQは探究全体で何を明らかにしたいかを示す「すぐに答えが出ない問い」であり、一度で完成するものではなく、情報収集や検討を重ねる中で更新・具体化されるものである。中学1年生の段階では、自身の興味・関心から出発した漠然としたテーマを、情報収集を通じて具体的な問いへと昇華させるプロセスに困難を感じることが多い。そこで本時では、先行研究を調べる際の「実態の把握」と「原因の解明」という2つの視点や、問いを具体化(どこ・だれ・何・いつ)させる手法を提示する。具体的な事例(公共交通の維持など)を通じて、問いが深化する過程を可視化することで、生徒が自力で「調べ学習」から一歩踏み込んだ探究的な問いを立てられるようにすることをねらいとして設定した。

3. 本時の目標

- **LIFEログの意義と方法の理解:** 「LIFEログ」の意義とループリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **リサーチクエストの理解:** リサーチクエストが「すぐに答えが出ない問い」であることを認識し、情報収集を通じて既存の問いを「対象の具体化」や「視点の転換」によって発展させ、探究の方向性を定めるRQを設定できる。
- **探究活動の実践:** 先行研究の調査において「実態」と「原因」の視点を持ち、探究ノートやRefNaviを活用して、収集した情報を整理・分析しながら主体的に自らの問いを更新し、探究活動を深めようとする態度を養う。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第8回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 参考文献:
 - 登本洋子・伊藤史織・後藤芳文(2023)『改訂版 学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	①本時の内容確認と活動目標の記入 本時の二大テーマである「LIFEログ」と「リサーチクエスト」の概要を確認する。探究活動の現在地を把握し、探究ノートの「日々の活動記録」欄に本日の予定と目標を記入する。	・探究ノートの「クラス・番号・氏名」の記入漏れがないか確認させる。 ・「本日の予定・目標」を具体的に書くよう促す。
14分	②LIFEログの説明と振り返りの実施 LIFEログの3段階のルーブリック(体験、自己評価、変化と次への接続)と「学びのサイクル」を学ぶ。各自、今週の「教科学習」「探究」「学校行事等」から項目を選び、成長につながるタイトルを付けて振り返りを記入する。	・単なる事実の記録である「レベル1」で終わらせず、自分の考え方の変化や次への行動を含む「レベル3」を目指すよう指導する。 ・「今日の振り返りが、明日の自分をつくる」という意識を持たせる。
20分	③リサーチクエストの設定方法の学習 RQが「すぐに答えが出ない問い」であることを理解する。公共交通の具体例を参考に、広い問いから具体的な問いへ深める手法(どこだれ等の具体化)を学ぶ。また、先行研究調査の視点(実態把握・原因説明)を理解する。	・問いの作り方が分からない生徒のために、「問いの種類」や「キーワードへの質問(5W1H)」などのフレームワークを紹介し、思考の助けとする。 ・医療の診断を例に出し、情報収集が不足すると適切な解決策が出せないことを強調する。
11分	④各自の探究活動の推進(ノート・RefNavi 記入) 各自のマインドマップを再確認し、テーマを絞り込む。先行研究を調べながら「問い」を立て、情報をRefNaviに登録する。収集した情報を基に問いを更新し、最終的なリサーチクエストの候補を探究ノートに記入する。	・各クラス担当教員は、生徒の問いが「調べればすぐに答えが出るもの」になっていないか、対象が具体的にしているかを中心に個別支援を行う。 ・先行研究を調べる際、文献番号や請求記号などの書誌情報を正確に記録するよう指導する。
【2時限目】		
50分	⑤各自の探究活動の推進(ノート・RefNavi 記入) ・授業終了10分前に、本日の活動内容と次回への課題を記録する。	・「日々の活動記録」を毎時間記入させ、活動の自己管理を徹底させる。